

2020年3月期決算報告



コ ー プ : 5 9 8 5

2020年6月8日

©SUNCALL CORPORATION All Right Reserved.

1.会社概要

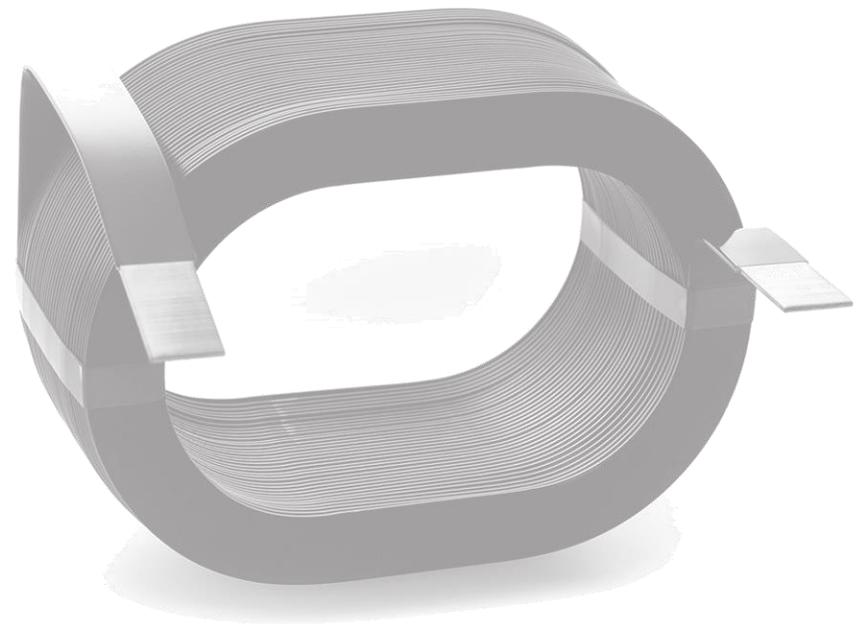
2.2020年3月期決算概要

3.2021年3月期業績見通し※

4.中期計画進捗状況

- 2021年3月期業績見通しについて
新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、国内外の事業環境に大きく影響を及ぼしております。当社の事業領域は国内外で多岐にわたり、現時点で業績予想の合理的な算定が困難であることから、2021年3月期の連結業績予想につきましては、「未定」といたします。
- ※
- 今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

会社概要



会社概要

社名	: サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION
設立	: 1943年6月
資本金	: 48億8百万円
本社	: 京都市右京区梅津西浦町14番地
証券取引所	: 東京証券取引所 第一部
従業員数	: 2,453名 (連結) 612名 (単体)
主要株主	: 伊藤忠商事(株) 26.6% 日本マスタートラスト信託銀行(株) (退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 15.8%

(2020年3月末時点)

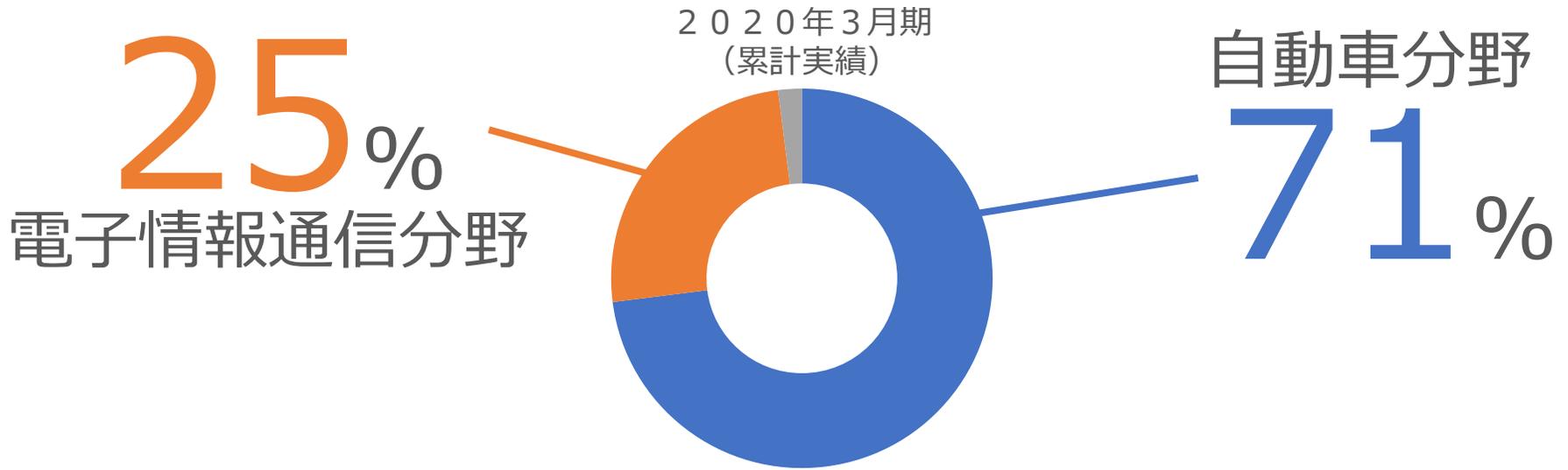
経営理念

技翔創変

サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

- ✓ 『**技翔**』とは、**技術を飛翔させていくこと**
特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない
- ✓ 『**創変**』とは、**変化を自分で作りだして行くこと**
世の中の変化についていくのではなく、変化をリードし、創造していく

事業分野 / 主要製品



HDD部品



HDD
サスペンション

プリンター部品



ローラー



トルクミッター
スプリングクラッチ

通信関連部品



光コネクタ



光アダプタ

精密機能材料



弁バネ用線



精密异形線

精密機能部品



弁バネ



リングギア



ぜんまいバネ



リアクターコイル

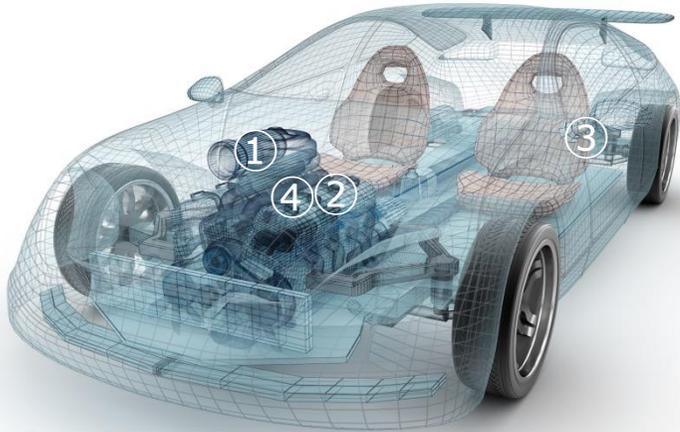


モーターコア部品

多様な用途に使用される当社精密部品

-自動車分野

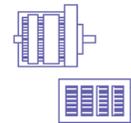
材料から加工まで一貫生産



一貫生産を支える当社の芯。
数々の独自技術に展開するコア
事業。安心・安全・高品質で新
規領域へ

材料関連事業・弁ばね用銅線 精密異形線

モーター・電気部品



ユニットの形状に合わせて個別に
設計。これからの配線の主役。

④バスバー



電流を流しながら、電圧を測定で
きるという機能を盛り込んだ、バス
バー一体型センサー。リチウムイオ
ン電池のような大電流にも対応。

④シャントonバスバー



過電流を検知すると通電部を破
壊瞬断する次世代センサー

④フューズセンサー



モーターの芯を構成する部品。当
社は自動で一貫生産し、高い生
産性を実現。

④モーターコア・ステーターコア



エンジン部品



国内シェアトップクラス。材料から
加工まで一貫生産により、高品質、
1億回の伸縮にも耐えられる高耐
久性を実現。

①弁ばね



ミッション部品



国内シェアトップクラス。独自の金
属加工技術で高精度を実現。

②リングギア・ドライブプレート

安全部品



材料から製造するため、精密なト
ルクの調節が行え、快適性を実現。

③シートベルト用ゼンマイばね

多様な用途に使用される当社精密部品 - 電子情報通信分野

今後5G・IOTの進展に加え、在宅勤務増加による需要増が期待される

サスペンション

HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする極限レベルの精度要求に対応



HDD

光コネクタ

光アダプタ



ローラー

トルクリミッター/スプリングクラッチ



長尺・軽量・高精度シャフト供給により
W/Wトップシェア

プリンター



データセンター

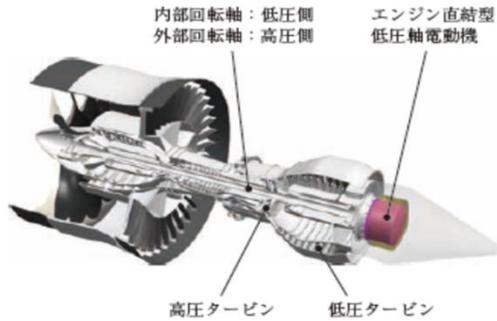
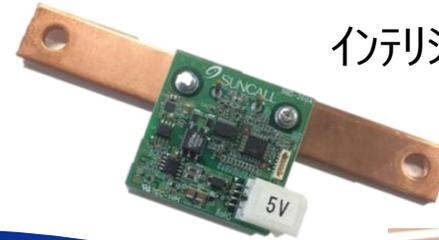


パソコン



次世代事業の開発

インテリジェンセンサー



電気自動車
ハイブリッド自動車



ロコモアップ° 西岡社様にて使用

開発分野

環境・エネルギー

医療・介護機器



サンコールの強み

蓄積されたノウハウと技術による実績と信頼

高度な精密塑性加工技術

金型 内製

- 引抜き加工用金型（ダイス）の内製化により、より複雑な形状の精密異形製品を創出。
- お客様の要求精度を満たしながら短納期化を実現。

品質 保証

- 高精度部品のものでづくりで得た計測ノウハウを応用展開。
- 独自のセンサー応用技術を活かしたインライン計測システムと制御技術を融合。品質・生産性を飛躍的に向上。

材料から製品までの一貫生産体制

材料 開発

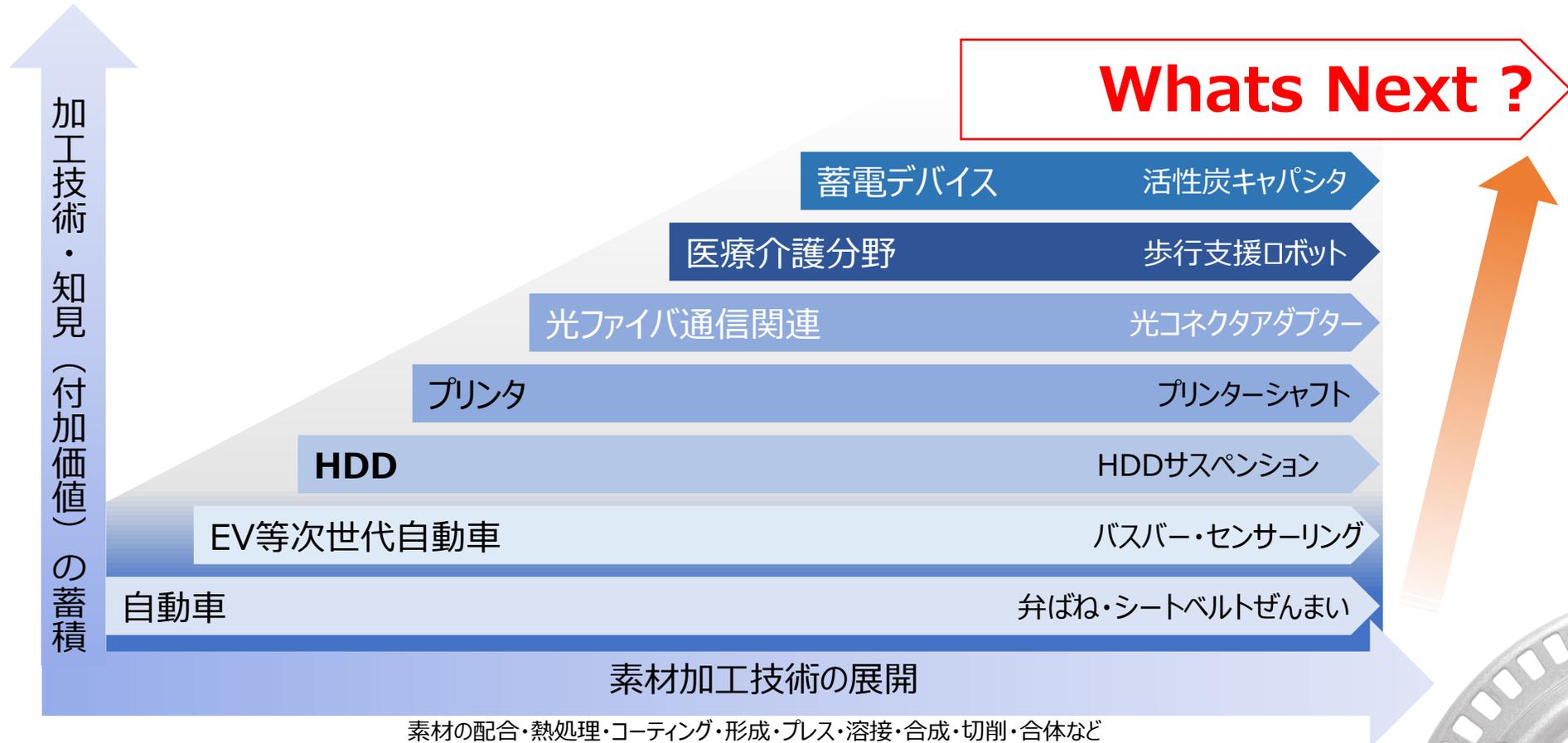
- 鋼材の成分設計から関与し、お客様の要求仕様を満たす高応力や高耐久性に優れた高強度材料を独自に開発。

表面 処理技術

- 窒化処理や多段ショット等の表面処理技術を駆使し、高い疲労強度を実現。

サンコールの強み

事業発展の歴史 精密塑性加工技術で精密部品を次々に創出



サンコールの強み

主要製品の開発の経緯・特徴・強み

自動車部品関連

コア事業 弁ばね

- 1943年航空機用弁ばね用鋼材製造を開始。
- 1952年トヨタ自動車等向けエンジン用弁ばねの納入開始。
- 線材の形状、仕様、素材配合から大手顧客と共同開発。自社で加工、熱処理まで一貫生産により、開発スピードが圧倒的に早い。
- 大手自動車メーカーのTier1としての信頼と実績。
- エンジンが高出力、高性能化しており、信頼性、高耐久性で同業他社に対する、優位性を確保。



EV 次世代自動車

- 当面、内燃機関搭載車の優位が続くと想定されるが、技術潮流を踏まえ、自動車電動化対応製品の開発を開始。
- 当社の強みである、素材配合からの一貫生産体制と、加工技術により、新製品を次々に上市。
- 伊藤忠商事の欧米ネットワークを活用、顧客の生産開発にスピーディーに対応するため海外拠点を活用。



サンコールの強み

主要製品の開発の経緯・特徴・強み

電子情報通信分野

HDD サスペンション

- 1985年HDDサスペンション事業に参入。サンコールが持つ板バネ技術を応用展開。
- ニアラインHDDでは、現在はグローバルメーカーで3社
- 5G・IOT等の進展により、データセンター需要は旺盛。データセンター向けニアラインHDDの需要拡大を見込み、積極的先行投資。



歩行支援 ロボット 医療介護分野

- 京都大学等と研究開発開始。
- 2019年3月「KAI-R」上市。2020年3月「Orthobot」上市。
- 自社開発活性炭キャパシタ（竹炭）の歩行支援ロボットへの展開。



国内・海外拠点

国内14拠点

本社 京都府京都市

生産拠点

本社工場 京都府京都市
 豊田工場 愛知県豊田市
 広瀬工場 愛知県豊田市

国内子会社

サンコールエンジニアリング株式会社 山梨県南アルプス市
 サンコール菊池株式会社 熊本県菊池市

営業拠点

東京支店 神奈川県横浜市
 名古屋支店 愛知県豊田市
 西日本支店 京都府京都市
 上田営業所 長野県上田市
 北関東営業所 栃木県宇都宮市
 浜松営業所 静岡県浜松市
 近畿営業所 京都府京都市
 西日本営業所 広島県広島市

海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテ州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテ州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、 光通信部品ほか
	香港	100%	同上
タイ	チョンブリー県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

2020年3月期決算概要



2020年3月期 決算のポイント

- **売上高42,354百万円（前期比△7.5%）営業利益1,375百万円（同△59.4%）**
 ＊ **計画比下振れ、減収減益だが、2019年10月23日公表の業績修正想定通り**

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響は軽微
 ＊ 海外子会社決算期12月で、連結対象は、2019年12月まで

- 自動車分野
 ＊ 国内堅調だが、中国市場向けは米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大などによる景気減速の影響を受ける

- 電子情報通信分野
 ＊ HDD用サスペンションの需要は旺盛。データセンター向け投資は回復基調、4Qに入り、売上回復傾向(但し3月に入り新型コロナウイルス感染拡大により、当社製造・検査拠点があるフィリピンが封鎖、出荷が停滞)
 ＊ プリンター関連は計画通り
 ＊ スマートフォン用部品の量産立ち上げは売上に寄与

2020年3月期 決算概要

POINT

- 売上高 米中貿易摩擦が長引き、中国の景気減速などの影響を受け前年同期比7.5%減収
- 営業利益 自動車関連製品の採算性改善等により上期を底に回復傾向にあるが、減収影響及びHDD用サスペンションの新規モデル開発費用等により、前年同期比59.4%減益
ただし、下期の営業利益率は4.3%で上期から2.1ポイント改善
- 経常利益 持分法による投資損失の悪化（前期▲48百万円に対して当期▲147百万円）
- 当期純利益 投資有価証券売却益563百万円、海外子会社移転関連費用▲119百万円を計上

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期				
	実績	実績	前期比増減率	予想 (10/23修正)	予想比増減率	(参考) 期初予想
売上高	45,812	42,354	▲7.5%	43,300	▲2.2%	45,500
営業利益	3,384	1,375	▲59.4%	1,300	5.8%	2,600
経常利益	3,557	1,336	▲62.4%	1,340	▲0.3%	2,500
当期純利益	2,314	1,123	▲51.5%	1,100	2.1%	1,900
一株当たり利益	72.59円	35.33円	▲51.3%	34.36円	2.8%	59.52円
平均為替レート	110.91円/ドル	108.74円/ドル	—	107.31円/ドル	—	108円/ドル
	128.40円/ユーロ	120.82円/ユーロ	—	—	—	—

2020年3月期 製品区分別売上

POINT

- 自動車分野 材料関連は欧州・韓国向け輸出を中心として低迷
自動車関連は国内需要向けは堅調だが、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大による中国景気減速の影響が大きく前年同期比減収
- 電子情報通信分野 データセンターの投資も底打ちし回復。当社HDD用サスペンション売上也4Qに回復。但し3月に入り新型コロナ影響により出荷減少。
プリンター関連の販売はほぼ期初想定通り
- その他 スマートフォン用部品の量産が寄与

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期		
	実績(A)	実績(B)	前期比増減額B-A	前期比増減率
売上高	45,812	42,354	▲3,457	▲7.5%
自動車分野	32,073	30,249	▲1,824	▲5.7%
材料関連	5,555	5,057	▲498	▲9.0%
自動車関連	26,518	25,192	▲1,325	▲5.0%
電子情報通信分野	13,038	10,396	▲2,641	▲20.3%
HDD用サスペンション	8,084	6,092	▲1,992	▲24.6%
プリンター関連	3,834	3,403	▲431	▲11.2%
通信関連	1,119	901	▲217	▲19.5%
その他	700	1,708	+1,008	+144.0%

2020年3月期 地域別売上

POINT

- 日本 自動車分野では国内需要向けはおおむね堅調だったが、米中貿易摩擦の長期化に加え新型コロナウイルス感染拡大により中国市場向け製品の需要が低迷
- 米国 自動車関連製品は順調に推移するも、通信関連は光通信産業の設備投資減少により販売低調
- 中国 米中貿易摩擦の長期化により、自動車分野の中国での回復は遅れる
またプリンター関連で納入が「その他」地域に変更になったことにより減収
- フィリピン HDD用サスペンションの減収
- その他 メキシコでは自動車分野好調
ベトナムでもプリンター関連は好調を維持

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期	
	実績	実績	前期比増減額	前期比増減率
売上高	45,812	42,354	▲3,457	▲7.5%
日本	19,486	19,488	+2	+0.0%
米国	4,401	4,280	▲120	▲2.7%
中国	5,099	4,018	▲1,080	▲21.2%
フィリピン	8,103	6,002	▲2,100	▲25.9%
その他	8,722	8,563	▲158	▲1.8%

2020年3月期 連結財務諸表

POINT

- 現預金減少 : 固定資産取得や配当金の支払い等により3,117百万円の減少
- 固定資産増加 : 国内子会社工場等の建物・構築物の増加745百万円、海外子会社のリース会計適用等によるリース資産の増加535百万円、国内子会社工場や生産設備の建設仮勘定の増加469百万円

(百万円)	2019年3月期末		2020年3月期末	
	実績	実績	前期末比増減額	
資 産 合 計	50,481	50,921	440	
現 預 金	11,861	8,743	▲3,117	
売 上 債 権	9,472	9,444	▲28	
棚 卸 資 産	5,567	6,835	1,268	
そ の 他 流 動 資 産	550	773	222	
固 定 資 産	23,029	25,124	2,095	
負 債 合 計	14,201	15,008	806	
流 動 負 債	10,694	11,599	905	
固 定 負 債	3,506	3,408	▲98	
純 資 産 合 計	36,280	35,913	▲366	
負 債 純 資 産 合 計	50,481	50,921	440	

2020年3月期 連結キャッシュ・フローの状況

POINT

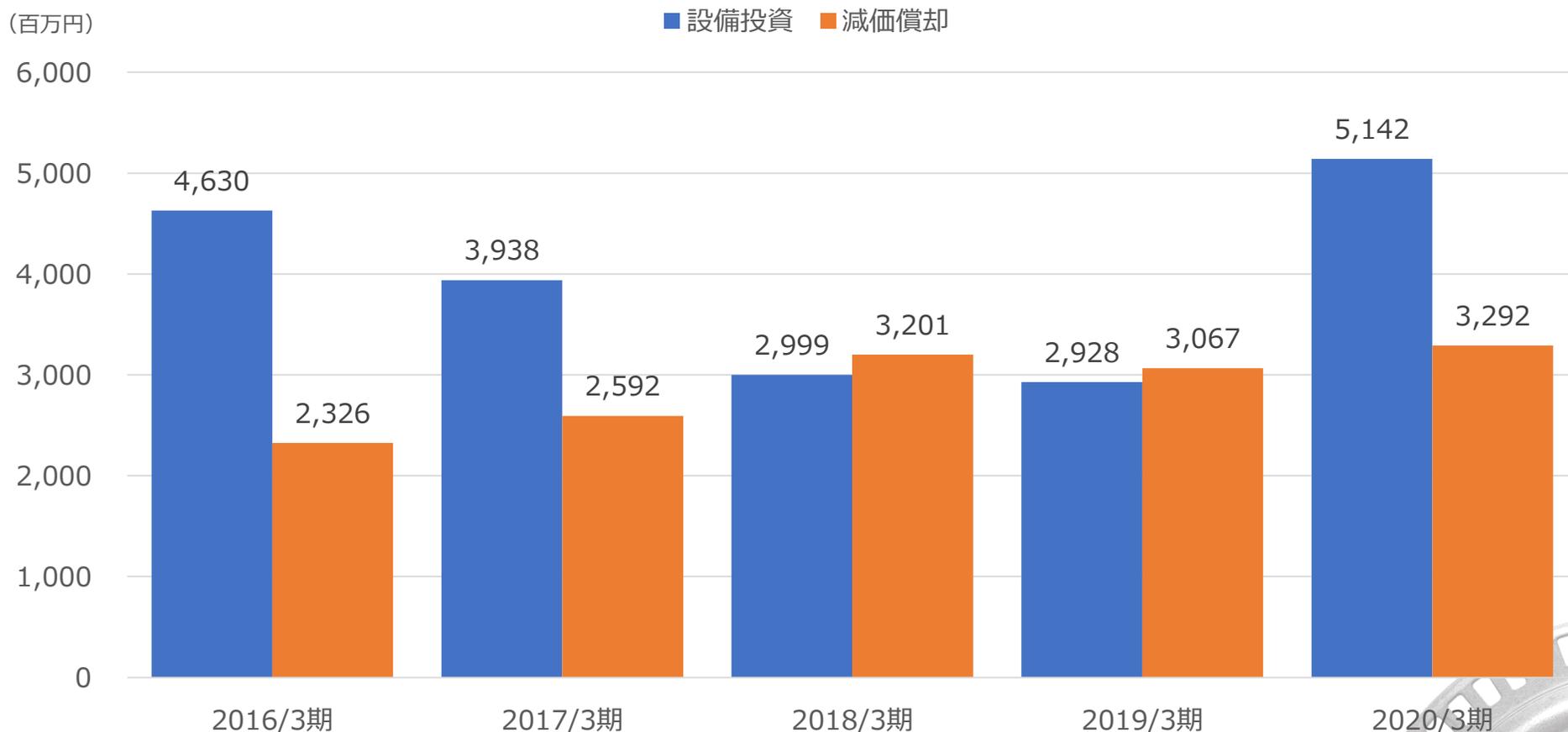
- 営業C/F 税引前利益が前年同期比1,400百万円減少したことに加え、棚卸資産が1,134百万円増加、一方、減価償却費は計上が進み前年同期比で224百万円増加
- 投資C/F HDD用サスペンションの設備投資や国内子会社の工場増築などによる支出のため、有形固定資産取得が前年同期比で2,089百万円増加した一方、投資有価証券の売却による収入が前年同期比582百万円増加

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期	
	実績	実績	実績	前年同期比増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,435	2,758	2,758	▲2,677
税引前当期純利益	3,167	1,766	1,766	▲1,400
棚卸資産増減	▲124	▲1,258	▲1,258	▲1,134
減価償却費	3,067	3,292	3,292	224
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,326	▲4,618	▲4,618	▲1,292
有形固定資産取得	▲3,246	▲5,335	▲5,335	▲2,089
投資有価証券売却	21	603	603	582
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲796	▲1,088	▲1,088	▲292
長期借入金増減	▲9	▲306	▲306	▲296
配当金支払	▲581	▲647	▲647	▲65

2020年3月期通期 設備投資・減価償却の状況

POINT

- 設備投資は自動車関連製品能力増強ならびに新規開発関連および工場増築投資
- HDD用サスペンションの能力増強ならびに工場増築など現在進行中
- 投資計画70億円に対して51億円、減価償却費計画37億円に対して33億円



※上記設備投資額については完成ベース

2021年3月期業績見通し



2021年3月期業績見通し

2021年3月期業績予想は現時点で「未定」



- 新型コロナウイルス感染拡大は、国内外で当社事業領域に広範囲に大きな影響
- 現時点で業績予想の合理的な算定は困難
- 今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表

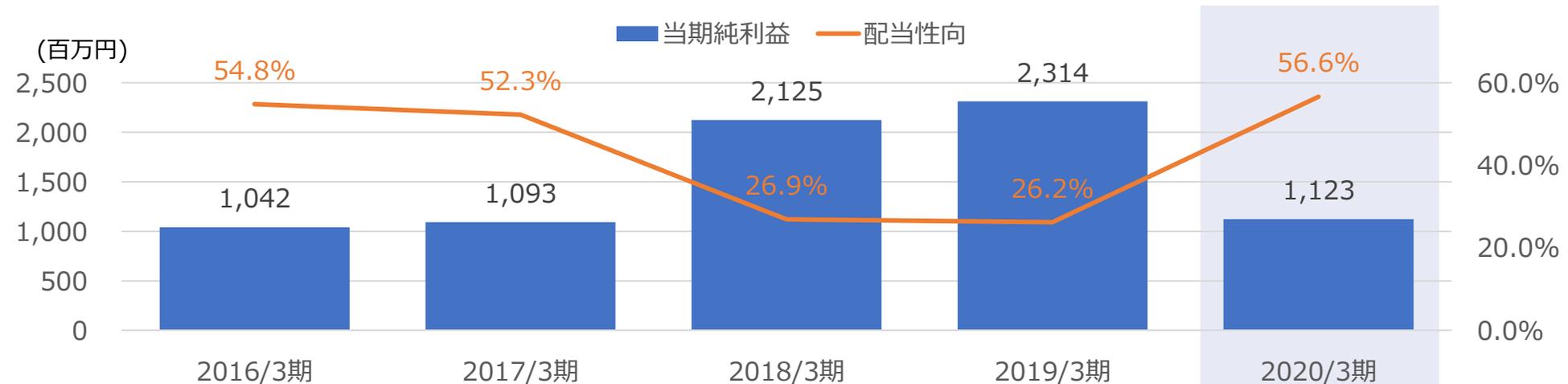
2021年3月期～直近のコロナウイルス感染拡大の影響（ご参考）

	2020年1月～3月	2020年4月～
海外子会社 ＊ 3か月期ズレ で連結	売上高：前期比約10%減少 北米 自動車：影響軽微、通信関連：需要弱含み 中国 1月後半から売上・生産に影響あるも3月後半から回復傾向	北米（アメリカ・メキシコ） 自動車：工場閉鎖、機能停止（アメリカ：非常事態宣言は5段階で緩和中。メキシコ：6月から操業再開予定。） 中国 自動車：ほぼ前年並に推移、回復 アジア 自動車：タイ操業減、プリンタ関連：弱含み
国内	2020年3月期の業績へ反映	自動車 4月から自動車メーカーの操業減が相次ぐ状況 緊急事態宣言は解除されたが、需要減を受けた生産調整は6月も一部継続する見込み 電子情報通信 HDDサスペンションの需要は旺盛だが、製造・検査拠点フィリピンが封鎖で出荷停滞中。5月～一部緩和。封鎖解除されれば、昨年実績を上回る納入再開

2020年3月期 配当方針

年間配当20円を予定(1円増配)

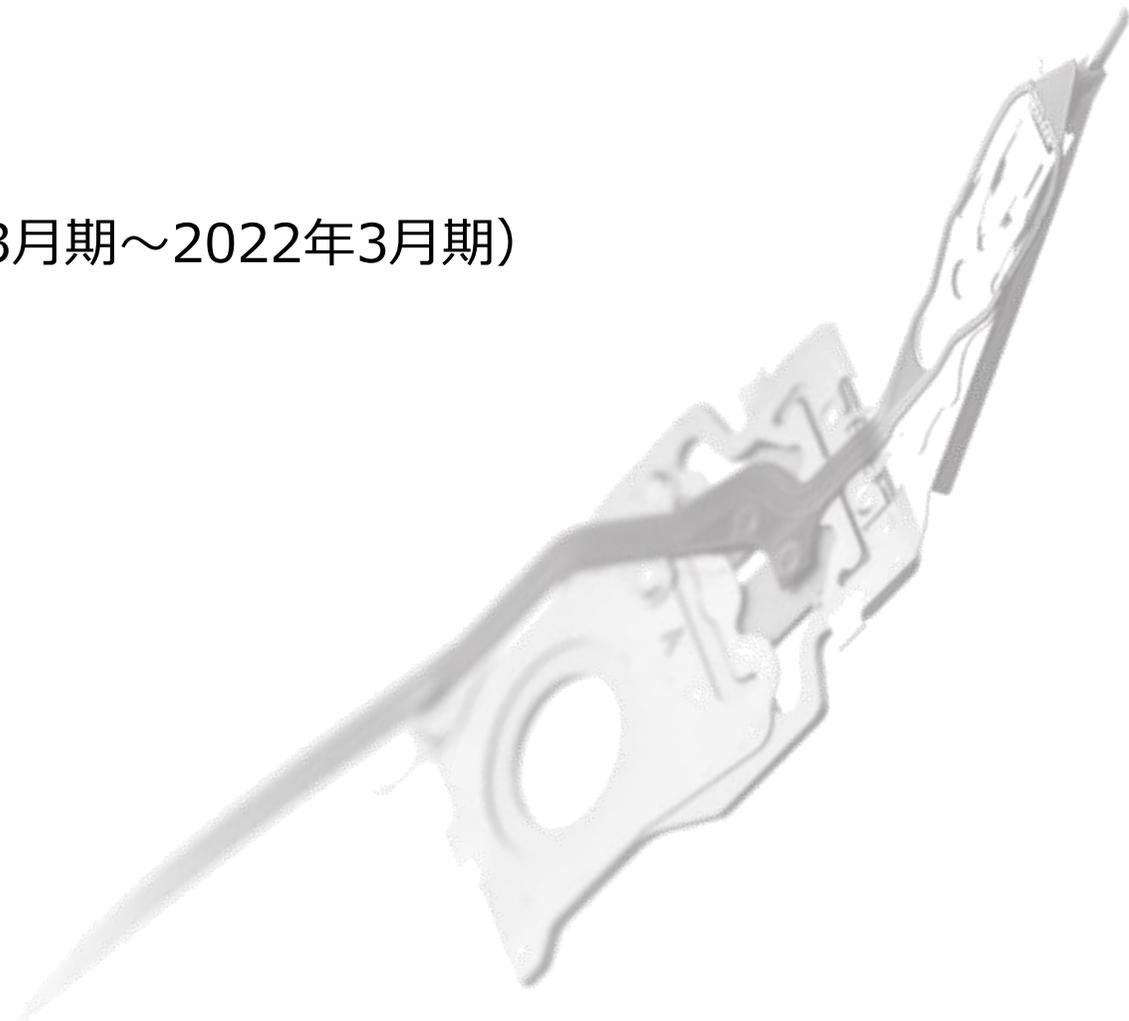
配当方針	当期純利益が 25億円まで配当性向	30%	配当下限 20円
	25億円超配当性向	40%	



中間配当	8円	8円	8円	8円	9円
期末配当	10円	10円	10円	11円	11円
年間配当 合計	18円	18円	18円	19円	20円

なお、2021/3月期配当につきましては、配当下限20円という方針があるものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う未曾有の経済情勢から、未定とさせていただきます

中期計画 GGP21 (2020年3月期～2022年3月期) 進捗状況



中期経営計画「GGP21」の主要経営指標と重点戦略

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コスト
(当社想定5.8%)
の水準を安定的に
上回るROEの
確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 **20**円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計
画)

次世代主力事業の
育成と深耕

成長性の高い分野への
経営資源の投入

コア事業における
高需要分野へ継続投資

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

中期経営計画「GGP21」の主要経営指標と重点戦略

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コスト
(当社想定5.8%)
の水準を安定的に
上回るROEの
確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 **20**円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計
画)

次世代主力事業の
育成と深耕

成長性の高い分野への
経営資源の投入

コア事業における
高需要分野へ継続投資

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

CASE対応～『電動化“E”』に注力

CASE(ケース) とは

- Connected (インターネットとの接続)
- Autonomous (自動運転)
- Shared & Services (シェアリング)
- Electric (電動化)

電流センサー次世代開発製品

電流センサー



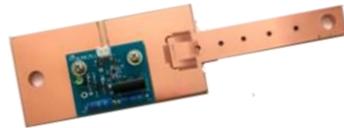
バスバー



シャントオンバスバー

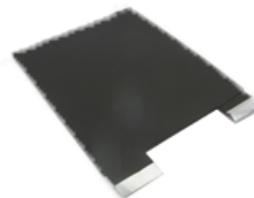


回路付き
シャントセンサー



ヒューズセンサー

次世代開発製品



活性炭キャパシタ



耐熱コイル

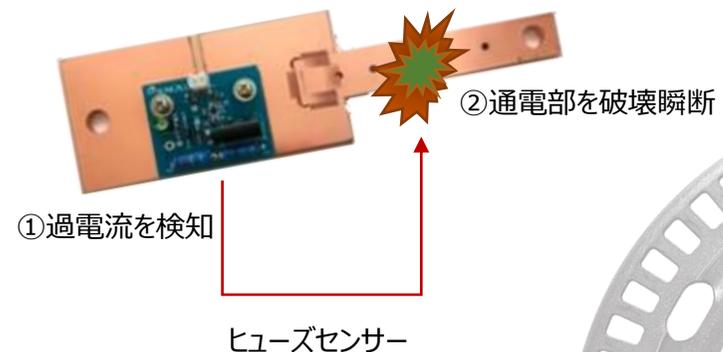
- 当社素子ボンディング技術の活用
- 放熱特性に優れる
- 量産評価中

電装機器向け
構成部品

① 電流センサーの事業化

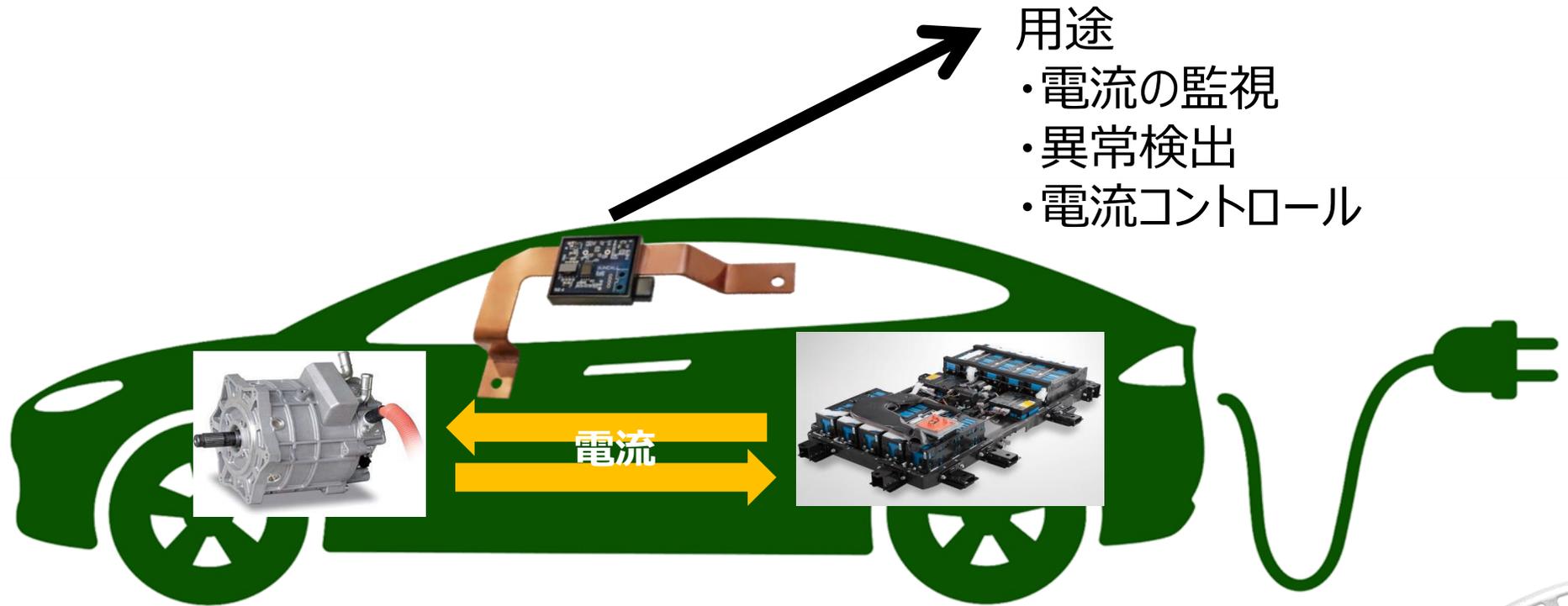
ワールドワイドで顧客ニーズに合わせた 製品開発により事業規模拡大

- 日本で商用車向けにシャントセンサー量産開始
- 顧客ニーズに合わせて仕様をカスタマイズ
- 欧米、中国にてOEM、Tier1、バッテリーメーカー向け拡販活動中
- 伊藤忠商事の欧米ネットワークの活用
- 異業種企業とのアライアンス強化により共同で拡販
- 各種試作供給し客先評価中
- 欧州バッテリーメーカー向けシャントオンバスバー2020年量産決定
- 自社内での設計機能強化中



① 電流センサーの事業化

シャントセンサー（電流センサー）



① 電流センサーの事業化

シャントセンサーの採用は徐々に増加

**電動フォークリフト用途
量産開始(2017年4月～)**



**特殊作業車両用途
量産開始(2021年4月～)**

**HVトラック用途
量産開始(2019年12月～)**



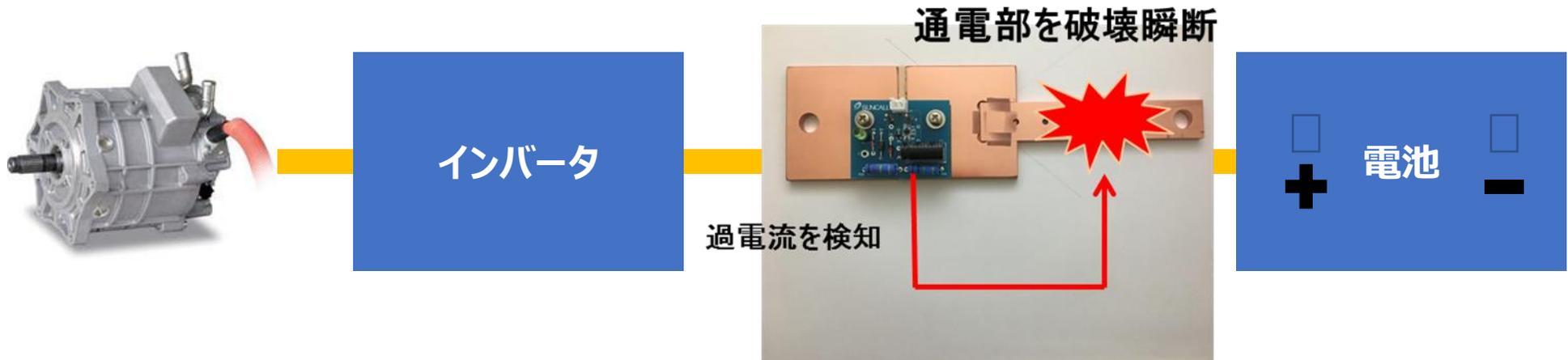
**自動搬送装置用途
量産開始(2020年1月～)**

**太陽発電用途
量産開始(2020年4月～)**

① 電流センサーの事業化

ヒューズセンサー：

通常はセンサーとして電流を監視し、異常検出時は通電部を破壊して過電流による事故を防止する



② 活性炭キャパシタの開発 (環境に優しい製造方法)

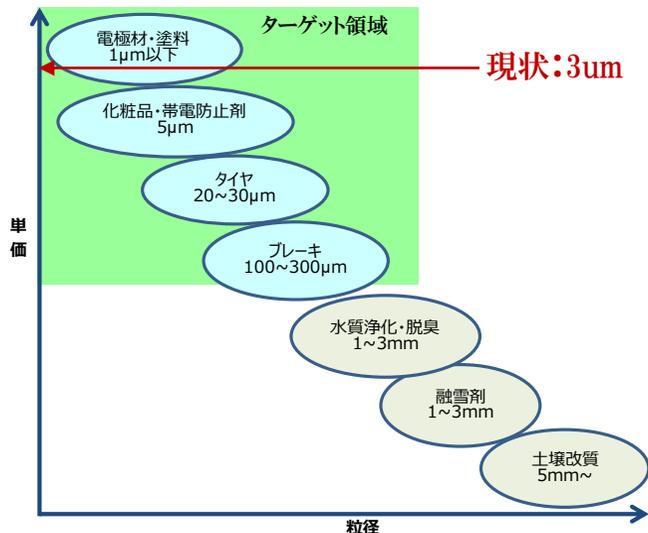
竹炭の利用でCO2削減効果



② 活性炭キャパシタの開発（環境に優しい製造方法）

歩行訓練支援機向けでは実用化に目処、 自動車向け参入を目指す

- 入手容易で安価な竹が原材料
- 放置竹林対策として自治体と協力
- CO₂排出量の少ない加热水蒸気炉を活用して活性炭に加工



竹炭で蓄電装置参入

サンコールが開発する竹の活性炭を使ったキャパシタの電極(同社提供)

竹の活性炭を使ったキャパシタの搭載を予定する同社の歩行訓練支援機

同社は、地方創生で包括連携協定を結ぶ宮津市の放置竹林の竹を利用して、自社製の過热水蒸気炉で活性炭を生産している。竹炭は微細な粉末とし、これらで生活用品の消費材や、美しい漆黒を生かして高級車のインパネに使われてきた。

過热水蒸気炉で製造する竹の活性炭は微細な穴の分布を制御できることから、

歩行訓練支援機 搭載へ

サンコールは、自社製の竹炭を用いたキャパシタ(蓄電装置)事業に参入する。宮津市産の竹を活用する取り組み。小型軽量化が可能で短時間での充電に向く特徴を生かし、まずは3年以内に同社の歩行訓練支援機に搭載し、事業化を進める。

キャパシタの素材としても優れており、実用化に向け開発を進めてきた。

同社は、エンジンの弁はねなど自動車部品を主力としていて、自動車の電動化を見据えながら新事業の開拓を進めている。すでに医療・介護分野向けに歩行訓練支援機を発売しており、3年以内をめどに電源として竹炭を用いたキャパシタを搭載する。

リチウムイオン電池と比較し、キャパシタは蓄電容量が少ない一方、短時間での充電に優れる。蓄電に化学反応を伴わないため安全性が高く、軽いため、訓練支援機や医療や介護現場での使用に向いているという。

大谷忠雄社長は「安価で安全なキャパシタの需要は多いはずだ。自社製品への搭載を皮切りに、蓄電部品事業に参入したい」と話す。(江夏順平)

2019年8月21日付 京都新聞掲載
京都新聞社よりご提供
無断複製・転載禁止

③歩行学習支援ロボット「Orthobot」を発売

「今使っている装具がロボットに変わる」 リハビリ支援ロボット

- 京都大学のCOI(Center of Innovation)において共同開発
- 脳卒中後の歩行リハビリを補助する装着型アシストロボット
- 歩行リハビリで使用するKAFO(長下肢装具)にアドオンすることで、KAFOが最新のリハビリ用ロボットに変化
- 市場を開拓し、主力事業へ育成



③歩行学習支援ロボット「Orthobot」を発売

Orthobotの特長

- 左右共用のため初期導入コストを抑えることができる
- 歩行介助の負担が小さく済み、省人化できる
- 動作プログラムが組み込み済みで直ぐに使用可能
- 通常の歩行訓練場所での運用が可能
- 軽量で装着性よく使用者に負担を与えない
- 使用者にメカ的な恐怖感を与えない革を使ったデザイン

使用者のメリット

- ・装着時間が短く短時間でトレーニングが可能
- ・理学療法士が少ない地方でもトレーニングが可能

導入側のメリット

- ・初期投資費用が小さい
- ・特別な設置場所が不要
- ・装着時間が短く大人数を効率よくトレーニング可能
- ・人件費節約

理学療法士のメリット

- ・肉体疲労の軽減
- ・1人でもトレーニング可能

③歩行学習支援ロボット「Orthobot」を発売

- ・脳卒中後のリハビリ
- ・歩行学習支援



2020年3月上市

中期経営計画「GGP21」の主要経営指標と重点戦略

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コスト
(当社想定5.8%)
の水準を安定的に
上回るROEの
確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 **20**円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計
画)

次世代主力事業の
育成と深耕

成長性の高い分野への
経営資源の投入

コア事業における
高需要分野へ継続投資

財務戦略

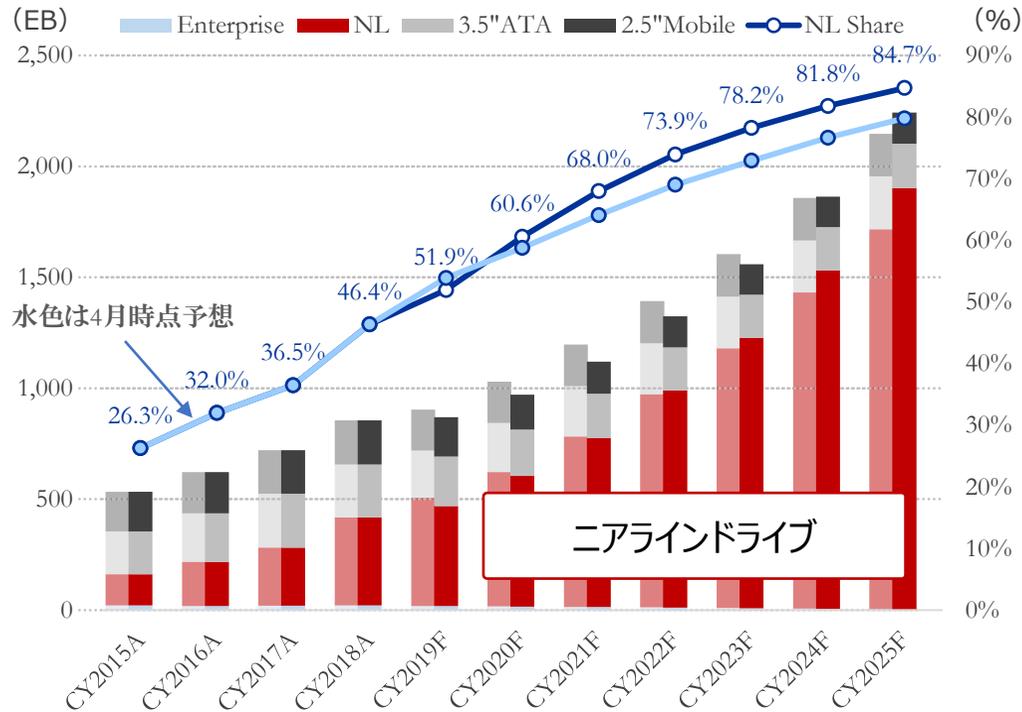
新規事業・投資案件の基準適正化

サスペンション事業は高い成長が見込める ニアライン向けHDDに特化

POINT

- ニアラインHDDは、大容量とGBコストの安さでSSDに対する優位性確保
- 2019年は一時的に落ち込んだが、引き続き高需要が見込まれる市場

HDDの容量需要とニアラインドライブの占める割合



A (実績) / F (予測)

(出所) テクノ・システム・リサーチ
Ver.191009

- ニアラインHDDの主な用途はデータセンター
クラウドや動画ストリーミングサービスが発達に伴いデータを保存するためのデータセンター需要は益々増加
- 2019年4月時点の予想と比較し、HDDの容量需要に占めるニアラインドライブの比率は2019年に落ち込むが、2020年以降は増える見通し。

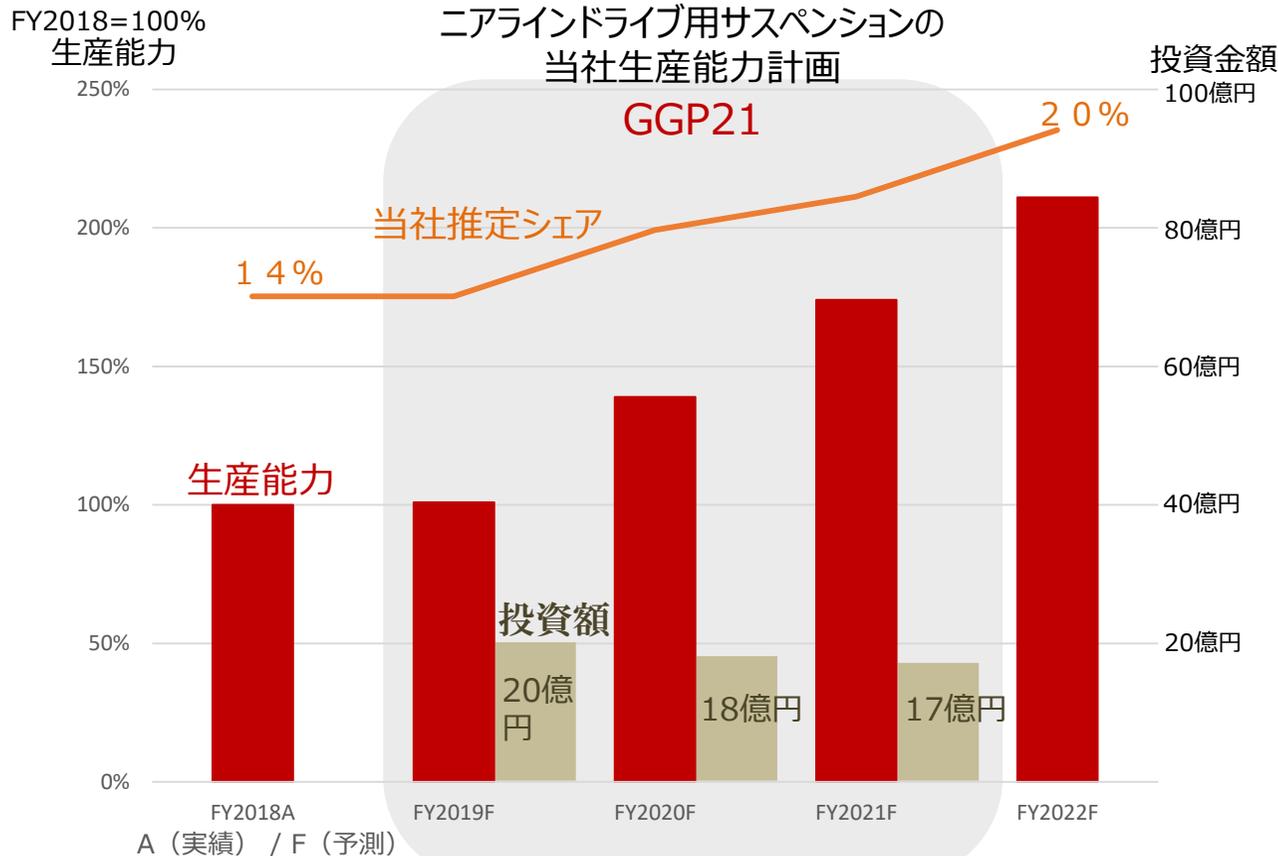
HDD : Hard Disk Drive(ハードディスクドライブ)データを保存する記憶装置

ニアライン向けサスペンションに投資を集中

POINT

- ニアラインドライブの高需要に応えるべくサスペンションの生産能力増強
- 市場ニーズは旺盛で、当社シェアは2022年で20%※を想定

※ ニアラインドライブ市場のサスペンション需要に対するシェアで、当社推定



- 生産能力は現状の2倍強を計画
- 電子情報通信分野への投資計画3年間合計55億円

ニアライン用サスペンションの全世界需要はテクノ・システム・リサーチのデータに基づく当社推定

中期経営計画「GGP21」の主要経営指標と重点戦略

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コスト
(当社想定5.8%)
の水準を安定的に
上回るROEの
確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 **20**円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計
画)

次世代主力事業の
育成と深耕

成長性の高い分野への
経営資源の投入

コア事業における
高需要分野へ継続投資

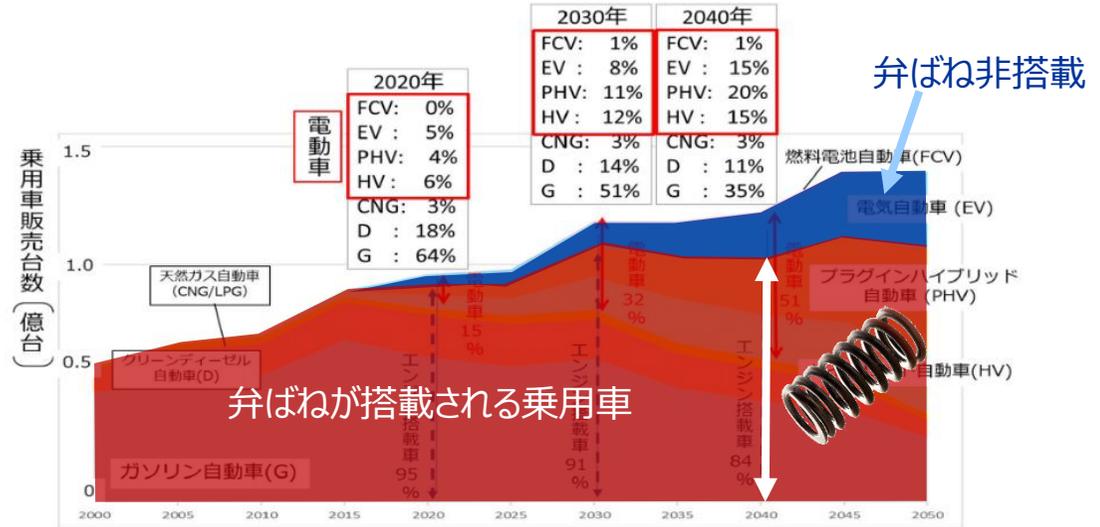
財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

① EVシフトを見据えたコア製品後継モデルの 継続受注・シェア向上

弁ばね

エンジン搭載車動向の注視



(出所) IEA「ETP(Energy Technology Perspectives)2017」に基づき作成
経済産業省 自動車新時代戦略会議 (第1回) 資料より

弁ばね搭載車
2040年で全体の84%

- HVやPHV、レンジエクステンダーEVなどでの採用活動推進中
- 受注に見合う適切な生産能力の確保
- さらなる新規案件の上積み
- 材料は日本・中国・メキシコ3拠点から供給
 - メキシコは生産能力増強を計画

② EVを構成する精密機能部品の開発・事業拡大

シートベルト用ぜんまいばね

- 北米需要取り込みのため2014年に速水発条と合併でメキシコ進出
- 当社および韓国KISWIREの圧延材料製造工程を韓国に集約



バスバー

- モーター、インバーター、バッテリーなどのユニット配線用途として拡販中
- ユニット形状に合わせた設計、金型不要のフォーミング加工や薄膜絶縁塗装技術で顧客要求にカスタマイズ

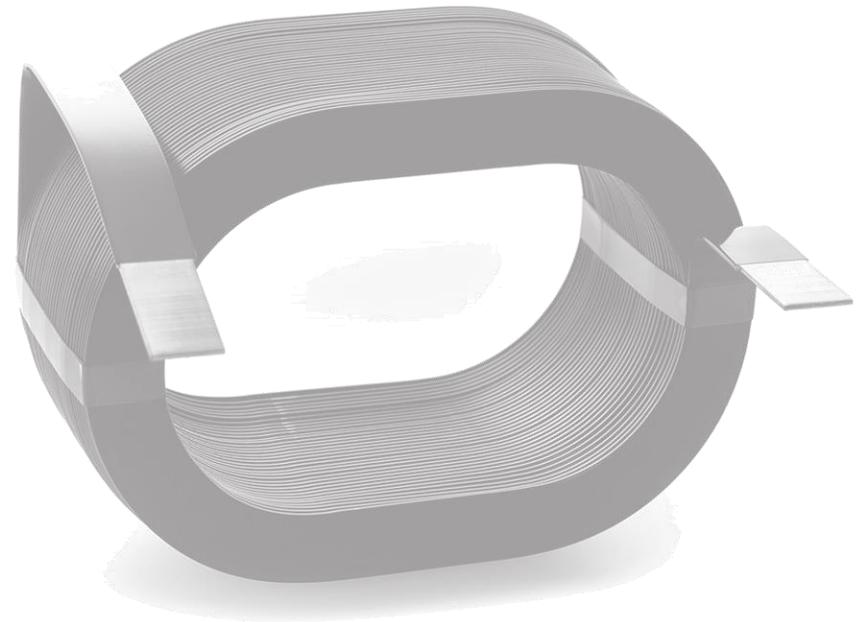


モーターコア・ステーターコア

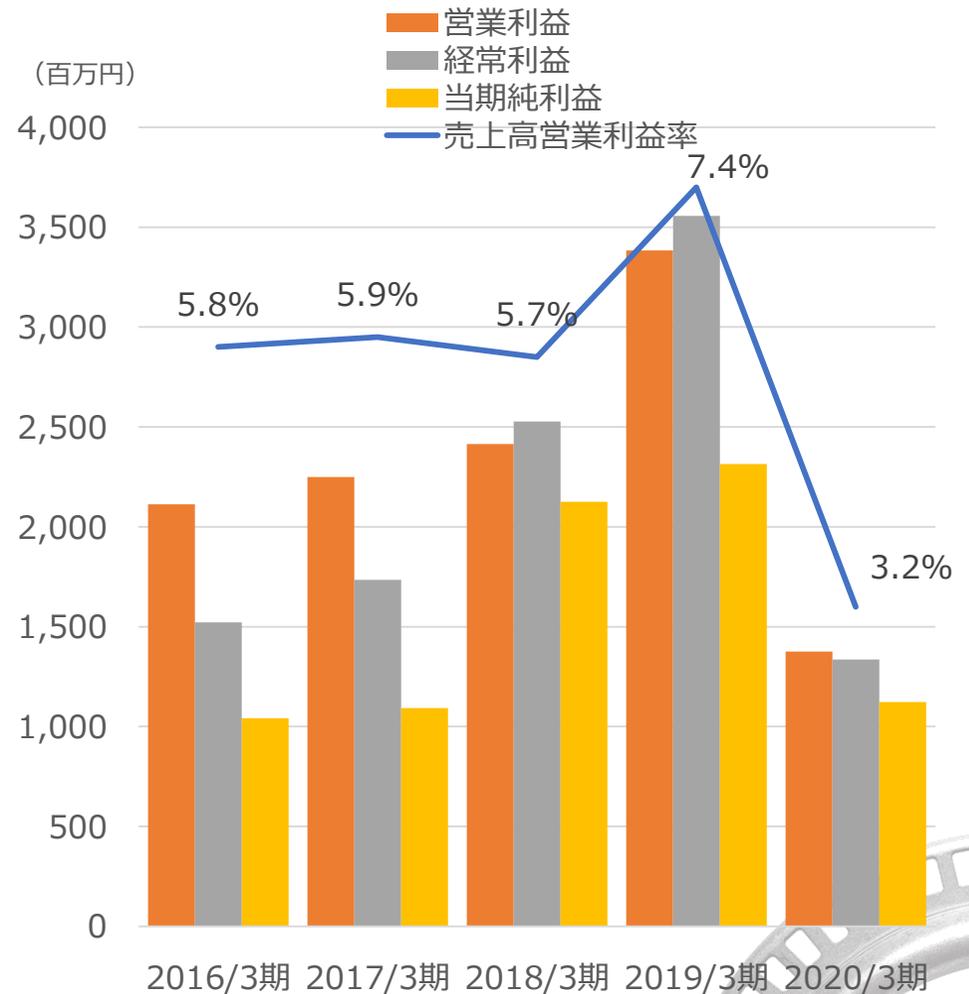
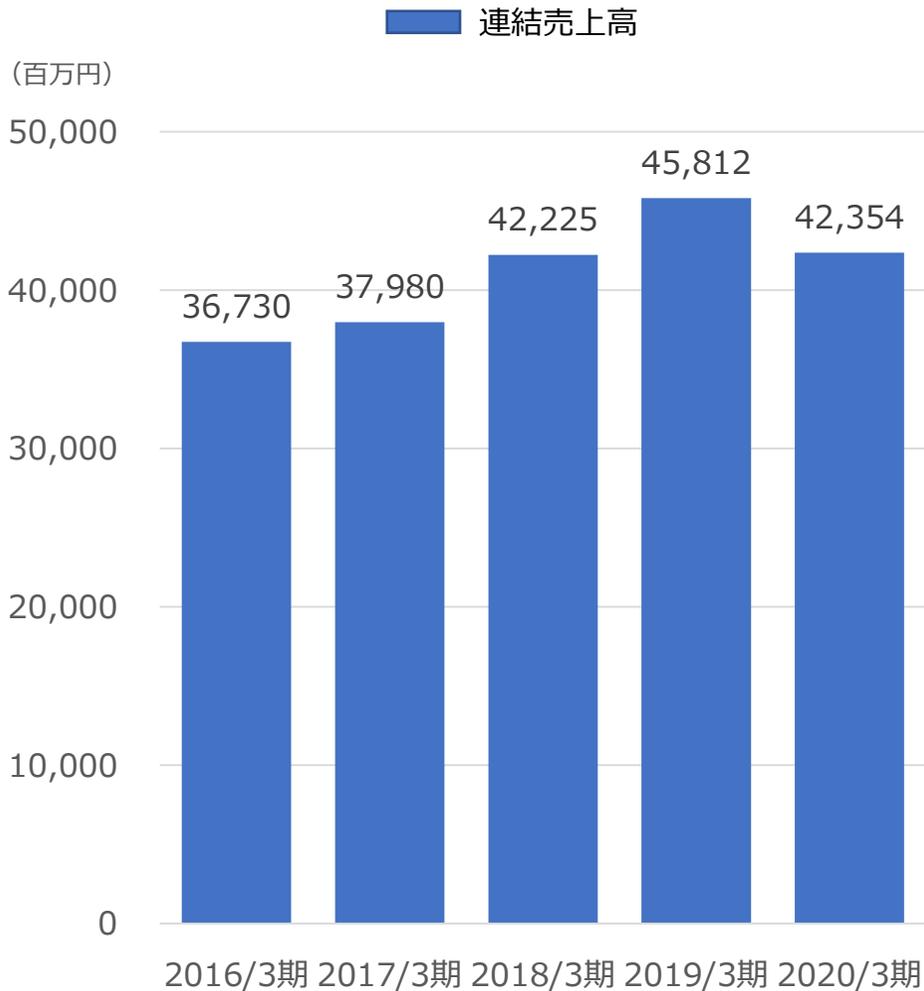
- モーターの構成部品
- プレス加工からシャフト圧入、研磨、洗浄まで自動一貫生産



補足



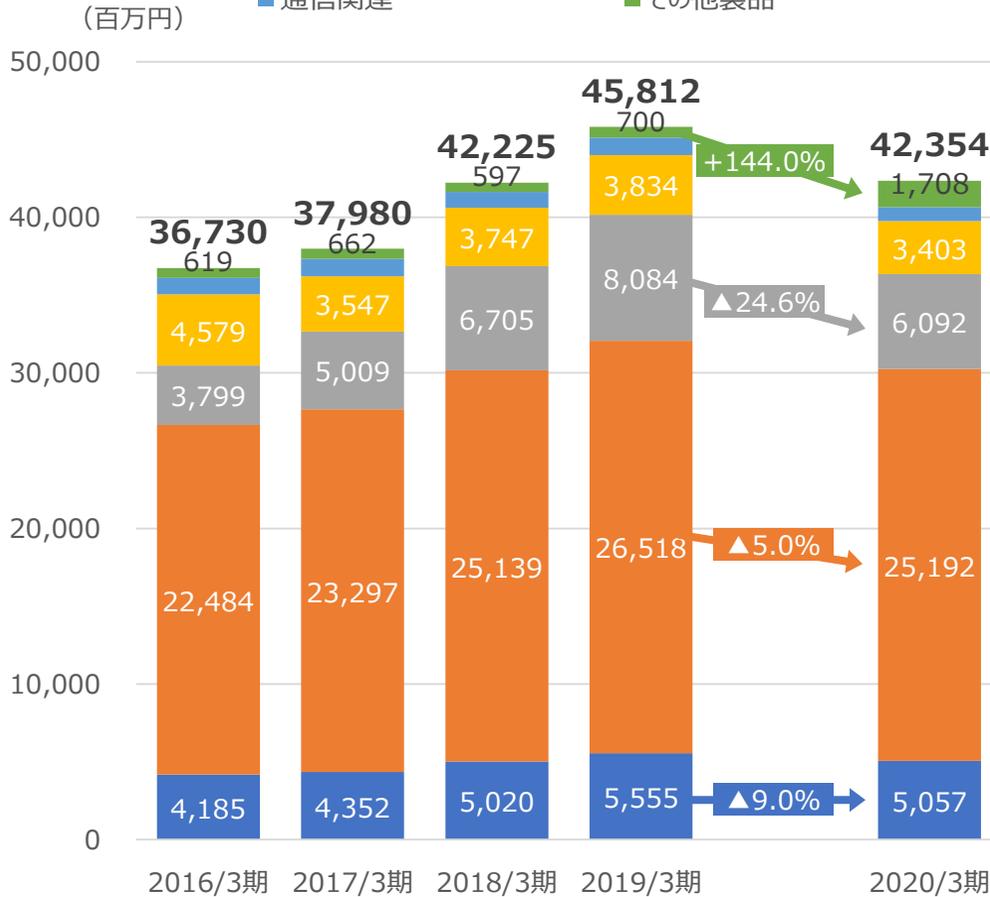
過去業績推移



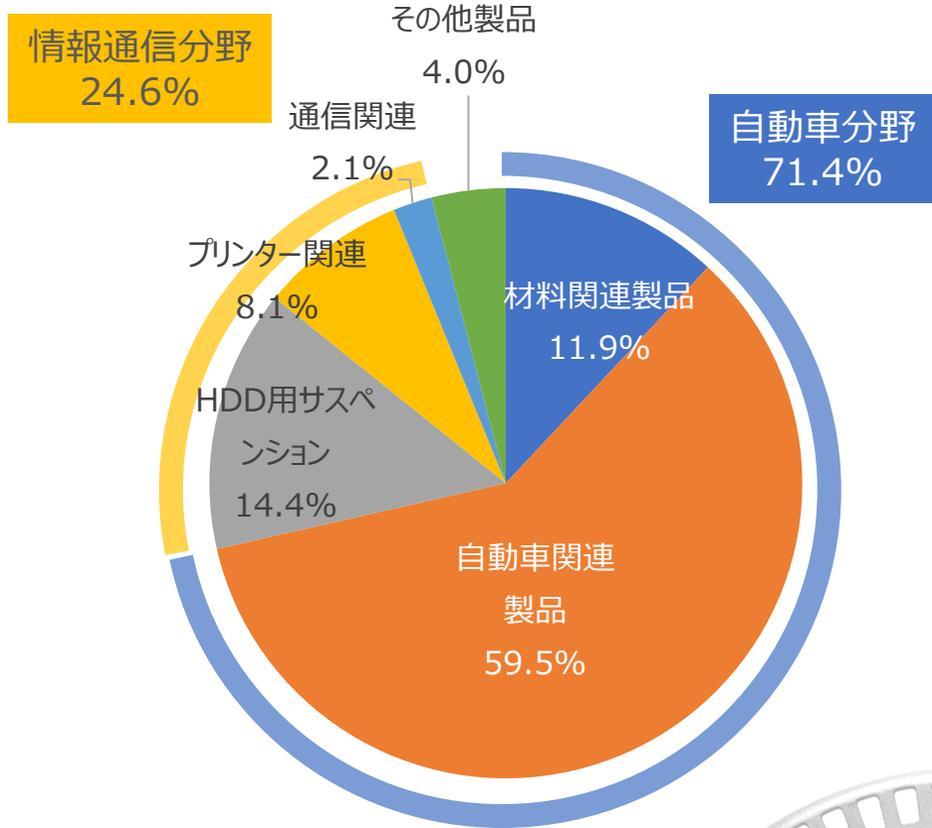
2020年3月期 製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移

- 材料関連製品
- 自動車関連製品
- HDD用サスペンション
- プリンター関連
- 通信関連
- その他製品

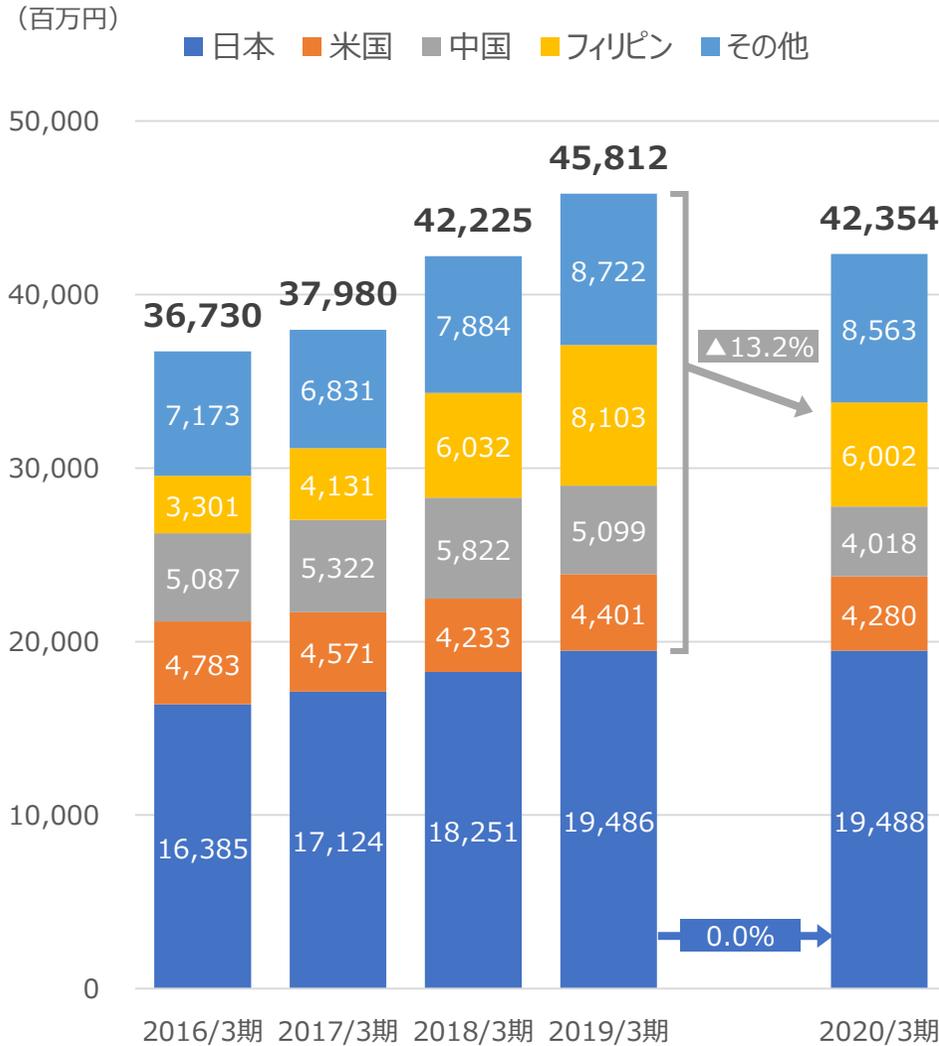


製品区分別連結売上高構成比 (2020/3期)

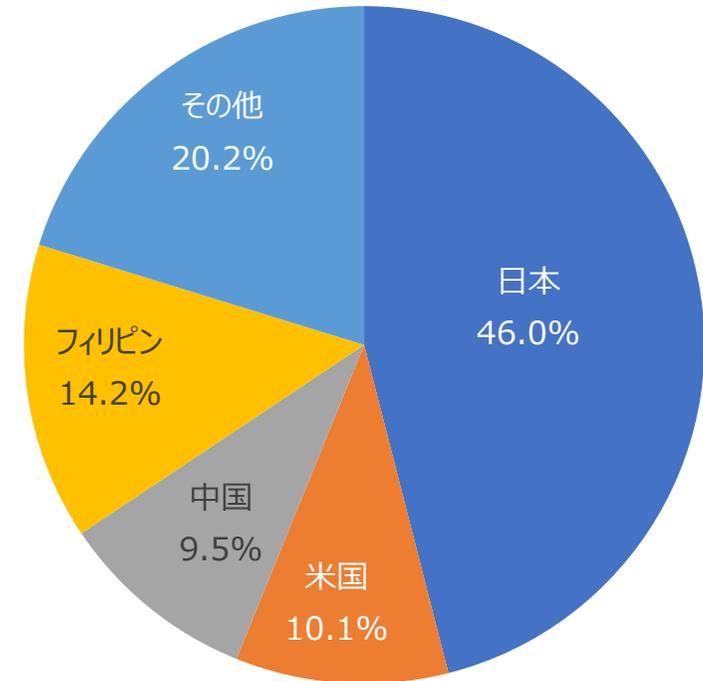


2020年3月期 地域別売上

地域別連結売上高の推移



地域別連結売上高構成比 (2020/3期)



【ご注意】

本日の説明および配布資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。